

令和4年度 第2回 政策決定会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和4年7月19日（火） 16：00～16：35
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、戎井副市長、大下教育長
 - ◆説明者：西川総合政策部長、貝口企画課長、中井政策担当長、前田主任、上田担当員
松下まちづくり推進部長、山田都市計画課長、藤井都市計画担当参事
-

◆審議事項

次期総合計画基本構想案及び都市計画マスタープラン全体像・素案の
パブリックコメントの実施状況について

・・・・・・・・・・・・・・・・・・企画課、都市計画課⇒承認

◆審議概要

- ◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案を一部修正のうえ承認された旨、報告。
- ◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉4点確認がある。1点目は、総合計画基本構想について。写真やグラフも改善され、整理されて分かりやすくなっている。今後も細部に亘る改善に努めること。2点目は、基本計画について。具体的な事業実行計画につながるものなので、実現可能なメニューを確認しながら進めること。特に、「みんなでめざそう値」は市民と共有できなければ意味がないので、わかりやすく、かつ正式なデータを根拠とするものであるように。また、経年変化が追いかけるデータに限定し、正確に確認していくこと。3点目は、都市計画マスタープランについて。道路や交通・移動手段は岸和田市が他市から遅れているところ。現在国全体が好景気で、税収も、国では2年連続バブル期を超え、過去最大の67兆円となっている。地方税も昨年は43兆円であり、前年に比べ1.6兆円の増加であり、バブル期の平成3年と比べると10兆円近く増えている。大阪府も税収が1,200億円以上も伸びているので、この機に国や府に積極的に要望をして、インフラに投資してほしい。4点目は、高齢化率について。岸和田市は府内平均よりも1%ほど高い。特に山間部は高齢者が多く、駅へのアクセスなど不便な地域も多いため、先日の地域公共交通協議会でもその対応について様々な意見が出たところである。インフラや移動手段の整備を是非、早急に進めてほしい。現在、岸和田市ではスマートモビリティを進めているところなので、空飛ぶクルマの実証実験といった先進的な取組を積極的に行い、さらに進めてほしい。昨今免許返納を促す動きもあるが、免許を必要とするスマートモビリティを使えなくなってしまうことがある。今後それらの課題を含め議論されたい。

〈戎井副市長〉重点目標は、庁内横断的に実施していかなければならないテーマであるため、企画課でしっかり進めてもらいたい。取組イメージの中で、具体的な施策が書かれていると

ころもあれば、そうでないところもある。どのような施策を拡充させるかはこれから議論し進めてほしい。観光については、事業者自らがやる気になって進めていただかないと意味がないので、自主的に行う事業を後押しする形で進められるように。DXについては、職員皆がそれぞれの仕事の中で効率性を常に考え、毎年ブラッシュアップしていくことが重要。一年一年の積み重ねで変わってくるので、その意識で全庁的に進めてほしい。

〈教 育 長〉行政では計画策定の際に英語等を使いがちだが、わかりにくい場合がある。DXも説明を入れていただいたことでわかりやすくなった。

〈まちづくり推進部長〉インフラ整備並びに移動手段の確保については、施策がスムーズに進展できるように対応したい。

〈市 長〉「みんなでめざそう値」は大阪府内全域で決まったものや基本となるものがあるのか。

〈堤 副 市 長〉平成 12 年に大阪府の総合計画でつくったものが総務省のモデルケースとなり、それを参考に全国のそれぞれの地域で実情に合ったオリジナルのものを作っている。

〈市 長〉「みんなでめざそう値」は、これからさらにブラッシュアップしていくのか。

〈政策担当長〉はい。

〈市 長〉例えば重点目標 1 の行政の取組イメージで、「『コグトレ』などによる基礎学力の向上と特別支援の充実」とあるが、この成果は正答率だけでわかるのか。コグトレは、これまで勉強に向かえなかった子ども達が、学校の楽しさや学習の理解を実感できることをめざすものでもある。それを捉えられる指標があればよい。「みんな泳げるプロジェクト」についても、水を怖いと感じるかどうかなど、取組の成果を確認できる値かという観点で、将来的に、新たな「みんなでめざそう値」の検討をされたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してよろしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和4年7月 11 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	次期総合計画基本構想案及び都市計画マスタープラン全体像・素案の パブリックコメントの実施状況について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、 簡潔に記載すること。)	令和5年度スタートの次期総合計画の基本構想案について、6/10 から 7/11 の期間で実施しているパブリックコメントについて報告するとともに、総合計画審議会にて引き続き、意見聴取を行い、計画策定を進めます。 また、都市計画マスタープランの全体像・素案についても、パブリックコメントの実施状況について報告するとともに、都市計画審議会にて、意見聴取を行い、策定を進めます。
説明者	貝口 企画課長、中井 政策担当長、前田 担当員、上田 担当員 山田 都市計画課長、藤井 都市計画担当特命参事
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和4年度 第2回会議
付議事項	次期総合計画基本構想案及び都市計画マスタープラン全体像・素案のパブリックコメントの実施状況について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	次期総合計画は、市制施行100周年を経て、次の”新しい岸和田づくり”をめざし、安心していつまでも住み続けることができる、個性豊かで魅力的なまちであるために、「笑顔にあふれ、誰もが”幸せ”を感じる都市」の実現を基本理念とします。市民や行政など様々な人が互いに協力しあい、総合計画に描いた将来像に向かってまちづくりを進めていきます。

★総合計画上の位置付け

202010201	基本目標	Ⅱ-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(1)行政の責務が果たされていることを市民が実感できている
	目指す成果	②明確な目標設定と評価により行政運営が行われている
	行政の役割	ア 目標の達成に向けて、計画的な施策の推進と適正な進行管理に努める

★現状と課題

第4次総合計画では、21世紀型の新しい仕組みづくりとして、市民参加、地域経営の視点から、岸和田市自治基本条例の理念を具体化する役割を担う「市民みんなの総合計画」として位置付け、積極的な市民参加による総合計画の策定を実施してきた。次期総合計画では、地域自治、公民協働のさらなる向上をめざし、市民参加による策定過程を重視した計画づくりとするとともに、まちづくり主体者の新たな連携の創出や多様な資源の活用など、少子、高齢社会における持続可能な地域づくりのための「みんなの総合計画」として策定していく必要がある。今回、基本構想案に関するパブリックコメントを6/10から7/11の期間に実施するとともに、市内6か所で地域説明会を開催した。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
とことん懇話会の開催、基礎調査、アンケート調査、団体ヒアリング等の運営補助委託費【～令和3年3月末】	12,815	12,815						
とことん懇話会の開催、庁内検討会議及び総合計画審議会運営、地区説明会の開催等運営補助及び計画書の作成委託費【令和3年4月～令和5年1月末】		10,538	9,999					
次期総合計画印刷、配布、広報【令和5年1月～令和5年3月末】			2,833					
総合計画の進行管理	16	16	16	16	16	16	16	16
都市計画マスタープラン基礎資料及び策定支援委託費	1,920	2,260	1,400					
都市計画マスタープラン印刷、広報【令和5年3月～4月頃】			850					
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源	14,751	25,629	15,098	16	16	16	16
	その他							
事業費			計	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
			80	16	16	16	16	16

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
有					
	(無)				

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R2年度	R3年度	R4年度	目標値				
					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
① 市民の声が市政に反映されていると感じている市民の割合	%	10	7.6						
② 市役所は目標の達成に向け、計画的に施策を推進していると感じている市民の割合	%	14.4	11.7						

※事業費及び人員を確約するものではない。